

岐阜薬科大学薬効解析学 原英彰教授



原英彰 (はら ひであき) 薬学博士。岐阜薬科大学薬学卒業。製薬会社研究所勤務。東北大学医学部神経内科学及びハーバード大学医学部ニューロサイエンスセンター留学。04年より現職。専門は神経化学、眼科学、薬理学全般。

「ビルベリーエキスは眼科の医薬品と共存できる」。酸化ストレスの防御作用の観点からビルベリーエキスの機能に注目している岐阜薬科大学の原英彰(薬効解析学)教授はこう主張する。

体が活性酸素の除去という漢と待し過ぎてはダメだということにもなるが」といふ。

原教授は、脳疾患や緑内障などの網膜疾患に対する創薬研究を専門とするとともに、植物由来の酸化ストレスの影響を受けや

眼科薬と共存可能

強い抗酸化作用が良い影響

来を中心とした機能性食品素材の機能性研究にも力をいれている。そのうち、ビルベリーエキス

およびそれに含まれるアントシアニンでは、これまでに緑内障、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性症(AMD)といった網膜神経細胞の障害や、網膜血管新生に關

連する眼疾患の予防や治療に効果がある可能性を、細胞試験と動物試験で明らかにしてきた。いずれも、わかさ生活との共同研究。

原教授によると、身体の中でも特に目は、老化や紫外線による酸化ストレスの影響を受けや

ものアントシアニンを含み、強い抗酸化作用を持つ。それが目に良い影響を及ぼしていると考えられる」と原教授は話す。一方で、ビルベリー(の機能性)は目に特化され過ぎているのではないかと思うことも語る。「活性酸素は様々な疾病の原因とも考えられている。だから、体全体にも良い影響を及ぼすと考えられる」からだ。

このように主張する原教授は、ビルベリーエキスには実際、北欧で伝統的に伝えられ、またイタリヤでは医薬品としての効能も認められている抗潰瘍作用があることを見出ししている。

原教授は語る。「百歩譲って目に対する効果が認められなかったとしても、体全体に良い効果があるのは間違いないといえる。だから私も毎日摂っている」。

ビルベリーエキスは15種類